開校49周年　児童一人ひとりを確実に伸ばす慈林小学校～あいさついっぱい　元気いっぱい　やさしさいっぱい　学びいっぱい～

慈林小だより

令和7年度　12月号　令和7年11月28日（金）

ツバメ

校長　石原　昌治

冬の寒さを感じる日が増えてきました。本校では、今月に入り、主にインフルエンザによる学級閉鎖が相次ぎ、保護者・地域の皆様におかれましては、ご心配をおかけしました。皆様のおかげをもちまして現在は落ち着き、楽しそうに学習する児童の元気な声が学校に戻ってきました。

さて、11月17日（月）～18日（火）に、6年生と日光市へ修学旅行に行ってきました。自分の役割を全うし、お互いに声を掛け合い、10分前行動を実践しながら予定どおりの時間で進めていく児童たちに、大きな成長を感じた感動の2日間でした。学年全体についても最高学年としての頼もしさを感じたのですが、一人ひとりの行動に感心する場面を多く見ました。風呂場の脱衣所で使用していないかごを友達の分まで直していた児童、ホテルに上がった際に友達の靴まで揃えてあげていた児童など、周りのためにちょっとした心遣いができる児童をたくさん見つけることができました。

話が少し変わりますが、「ツバメ」というYOASOBIの歌をご存じでしょうか。校内音楽会において、本校児童全員で合唱した曲です。アップテンポでとても素敵な曲ですが、特に歌詞に心を動かされます。この曲は、有名な童話「幸福な王子」をモチーフに、当時中学生だった女子生徒が書いた「小さなツバメの大きな夢」という小説をもとに作られたそうです。歌詞の中では、「みんなが幸せに生きるために」という共生の精神が描かれています。修学旅行において、みんなが素敵な思い出となるために自分にできることはなんだろう、と考え実践する6年生の姿は、この曲に何か通じるものを感じました。

現在、世界では様々な「分断」が起きています。そのような中、学校生活において子どもたちは「他者との関係性」や「多様な社会との向き合い方」について日々学んでいます。保護者の皆様におかれましては、全校で合唱した「ツバメ」の歌詞について、是非ご家庭で話題に挙げてみてください。　最後に、「ツバメ」の歌詞で印象に残った部分を紹介します。

僕らは色とりどりの命とこの場所で共に生きている
それぞれ人も草木も花も鳥も肩寄せ合いながら
僕ら求めるものも描いている未来も違うけれど
手と手を取り合えたならきっと笑い合える日が来るから
僕にはいま何ができるかな

YOASOBI「ツバメ」より引用